資料４

令和５年 青森県保健医療計画(心筋梗塞等の心血管疾患対策)における数値目標の現状値等把握調査結果

１　目的

「青森県保健医療計画」における心筋梗塞等の心血管疾患対策の数値目標に関する評価及び青森県における心血管疾患の現状把握を目的とする。

２　調査項目

（１）急性心筋梗塞（ST上昇型心筋梗塞）
（２）急性大動脈解離
（３）心不全

３　調査対象期間

・令和5年1月～12月

４　調査依頼機関

・弘前大学医学部附属病院
・青森県立中央病院
・青森市民病院
・八戸市立市民病院
・青森労災病院（※急性大動脈解離のみ）
・つがる総合病院
・三沢市立三沢病院
・むつ総合病院

（計８医療機関）

資料について

・p.1～　急性心筋梗塞（ST上昇型心筋梗塞）調査結果
・p.5～　急性大動脈解離 調査結果
・p.8～　心不全 調査結果

急性心筋梗塞（ST上昇型心筋梗塞）

R5年調査

■ 調査項目

問１－１　令和5年１月～12月までの急性心筋梗塞（ST上昇型心筋梗塞）患者のうち、経皮的冠動脈形成術（PCI）を実施した患者数

問１－２　上記患者のうち、
①発症（胸痛等）から来院までの時間数
②症状発現後12時間以内に来院し、来院から90分以内にバルーンカテーテルによる責任病変の再開通が行われた件数

■ 調査結果概要

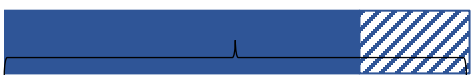
令和5年 PCI実施患者数

令和4年
418人

令和5年
407人
11人減

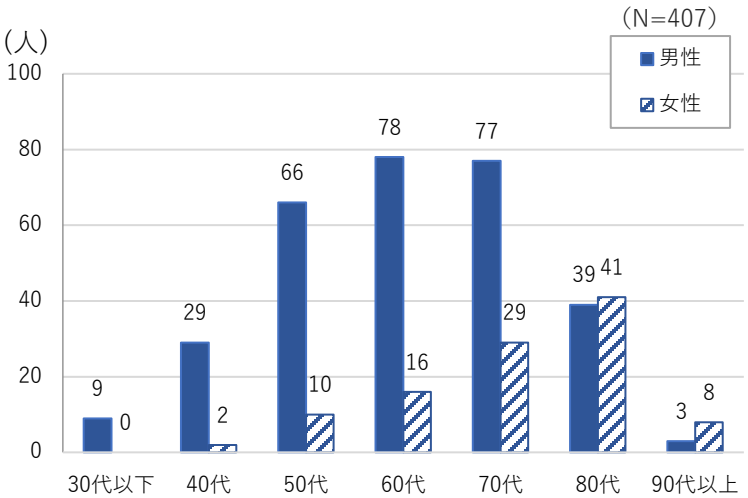
患者数（男女別合計）

計407人



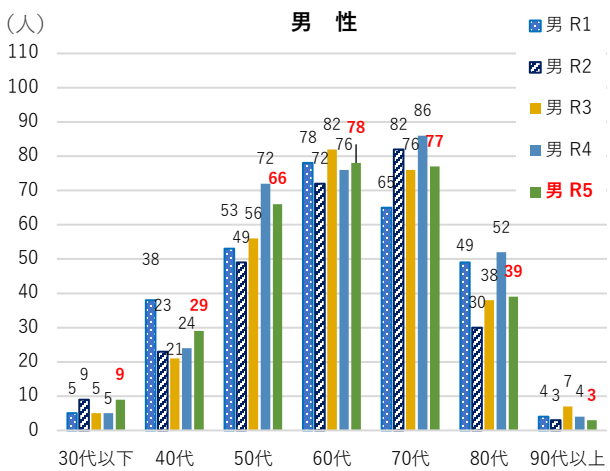
男性301人　　女性106人

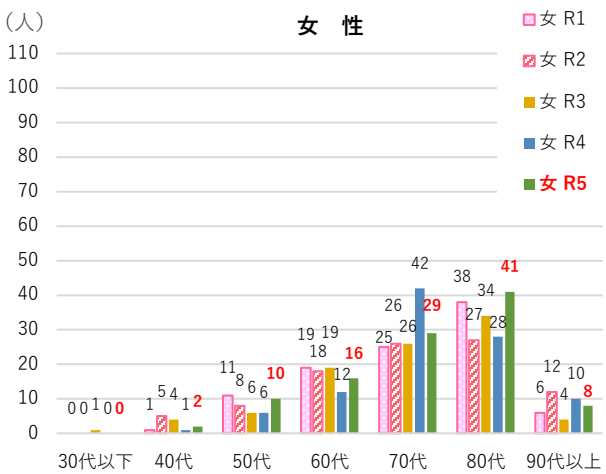
令和5年 PCI実施患者数（年代・性別）



・男女比は、およそ**男性：女性＝３：１**
・**男性**は**60代**、**70代**、50代の順に多い
・**女性**は**80代**、**70代**、60代の順に多い

【R1~R5】PCI実施患者数（年代・性別）

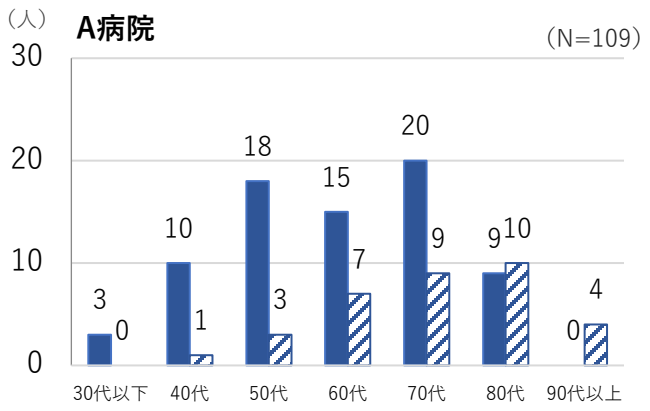


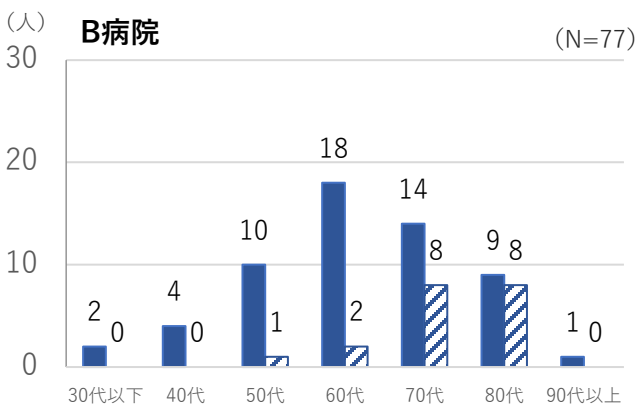


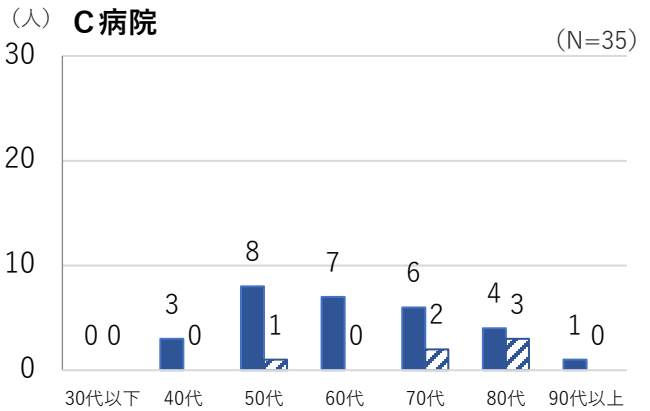
急性心筋梗塞（ST上昇型心筋梗塞）

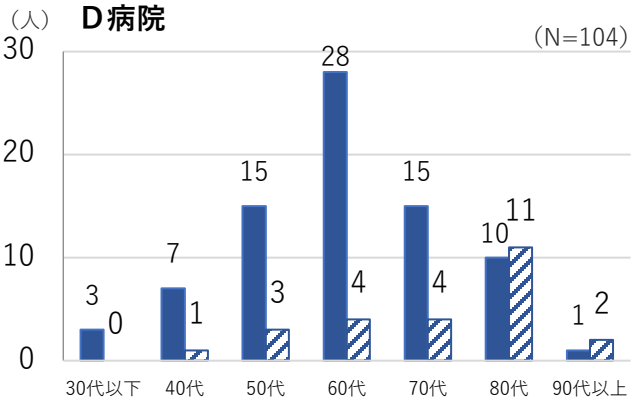
R5年調査

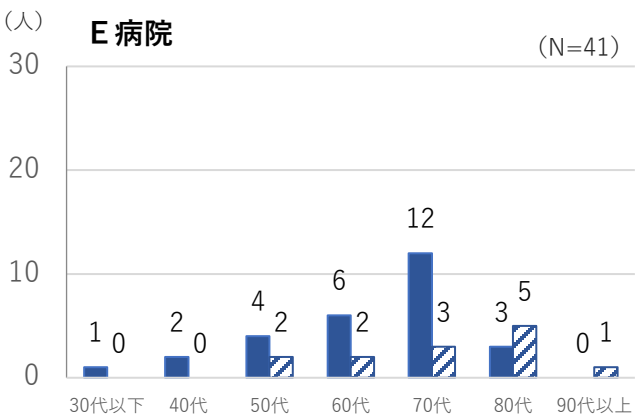
■ 医療機関毎のＰＣＩ実施患者数（性別、年代別）

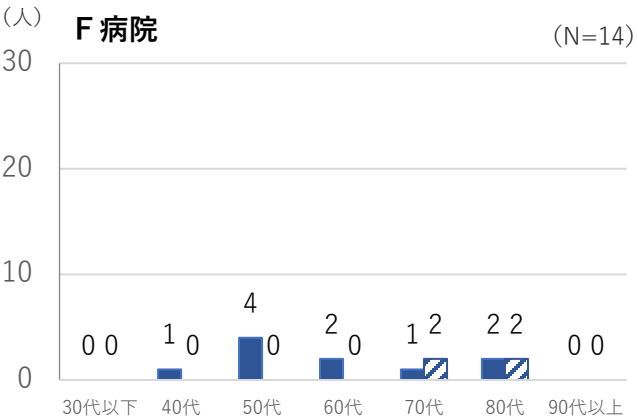


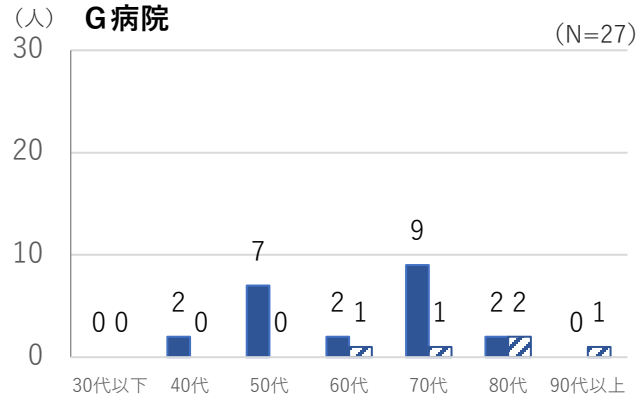


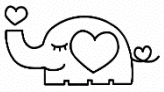












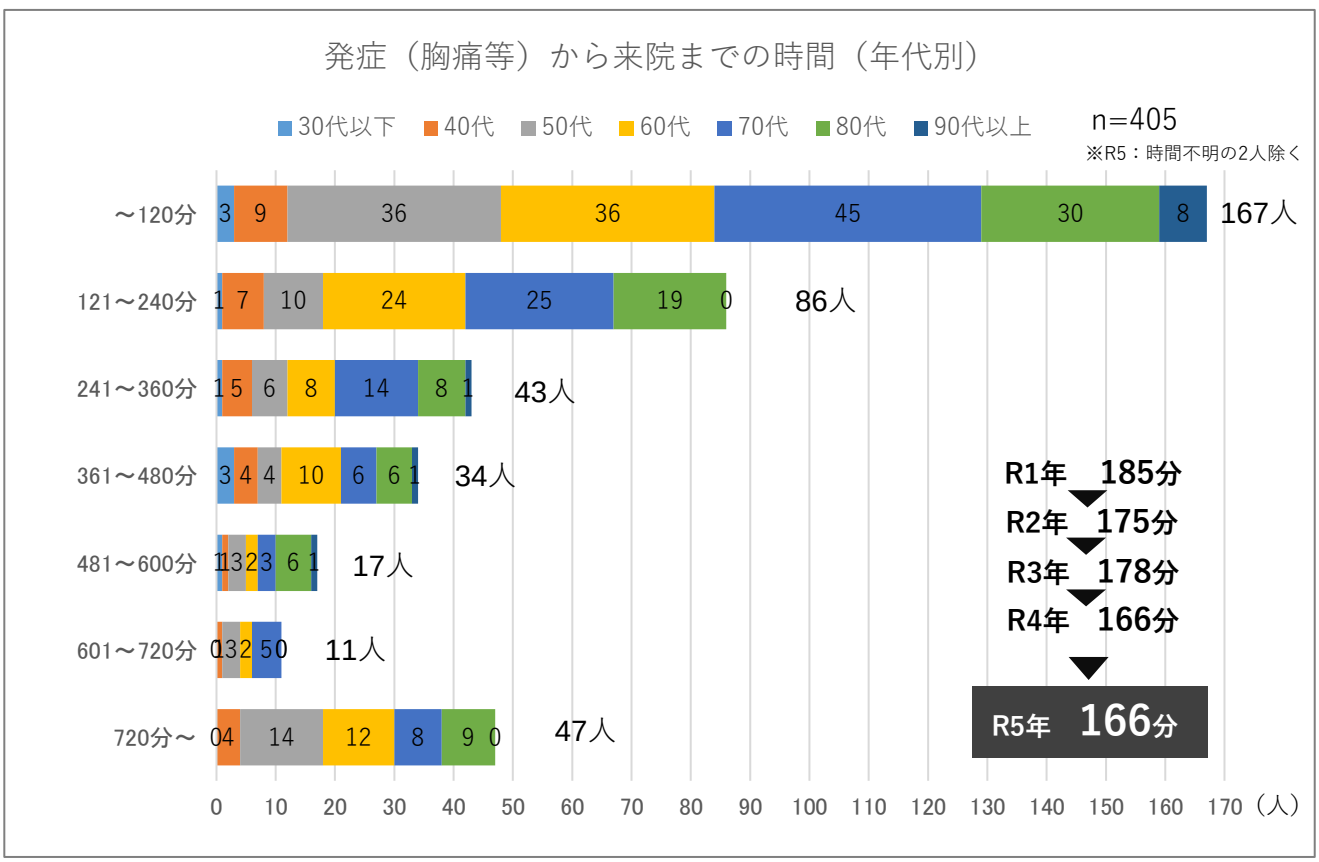
急性心筋梗塞（ST上昇型心筋梗塞）

R1～R5年調査

■ 第7次青森県保健医療計画における目標項目

目標	目標項目	推移	目標値
急性心筋梗塞の症状に関する正しい知識を持ち、発症時に速やかに医療機関を受診する。 県民が急性心筋梗塞に関する正しい知識をもち、発症時に速やかに119番通報を行う。	急性心筋梗塞（ST上昇型心筋梗塞）患者の発症から来院までの時間	※各年ごとに中央値を算出 R1：185分 R2：175分 R3：178分 R4：166分 **R5：166分**	短縮
医療機関は、患者に到着後速やかに専門的治療を行う。	急性心筋梗塞（ST上昇型心筋梗塞）に対し、症状発現後12時間以内に来院し、来院から90分以内にバルーンカテーテルによる責任病変の再開通が達成された件数	R1：256件/392件（65.3%） R2：197件/363件（54.3%） R3：233件/367件（63.5%） R4：254件/415件（61.2%） **R5：235件/405件（58.0%）**	増加

■ 上記指標項目に係る調査結果（R5）



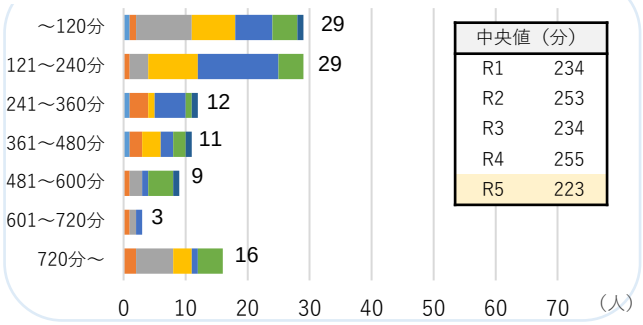
急性心筋梗塞（ST上昇型心筋梗塞）

R5年調査

■ 発症（胸痛等）から来院までの時間（分）（医療機関毎）

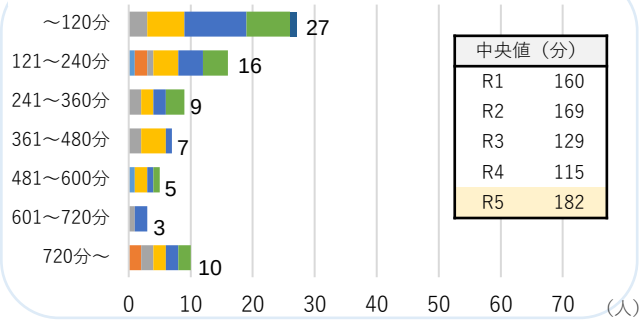
※グラフ右横の数字は時間区分ごとの合計人数

A病院　n=109



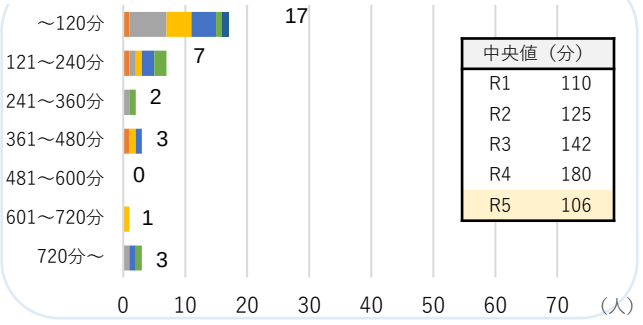
中央値（分）	
R1	234
R2	253
R3	234
R4	255
R5	223

B病院　n=77



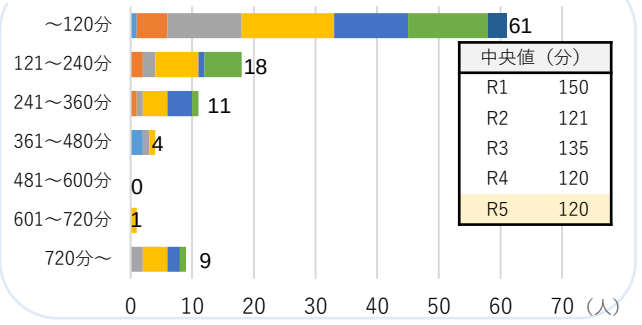
中央値（分）	
R1	160
R2	169
R3	129
R4	115
R5	182

C病院　n=33　※時間不明の2人除く



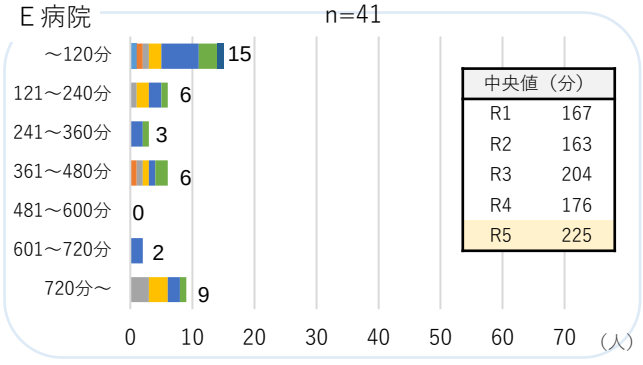
中央値（分）	
R1	110
R2	125
R3	142
R4	180
R5	106

D病院　n=104



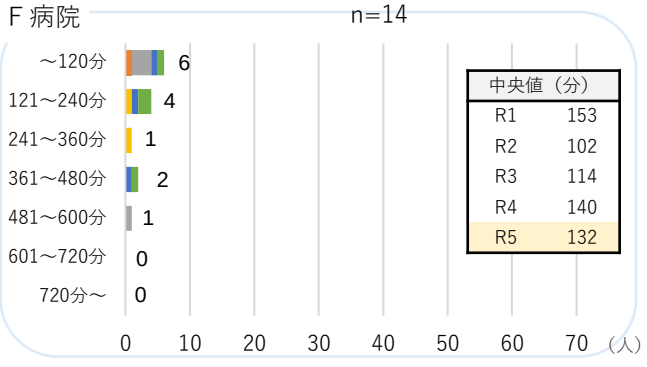
中央値（分）	
R1	150
R2	121
R3	135
R4	120
R5	120

E病院　n=41



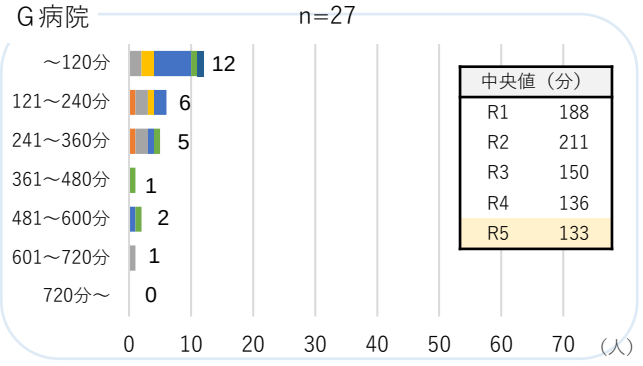
中央値（分）	
R1	167
R2	163
R3	204
R4	176
R5	225

F病院　n=14

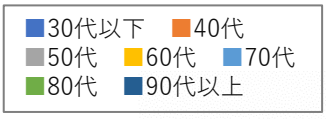


中央値（分）	
R1	153
R2	102
R3	114
R4	140
R5	132

G病院　n=27



中央値（分）	
R1	188
R2	211
R3	150
R4	136
R5	133



急性大動脈解離

R5年調査

■ 調査項目

問１　R5年１月～12月までの急性大動脈解離（発症後２週間以内のもの）の患者数
問２　上記患者の内訳

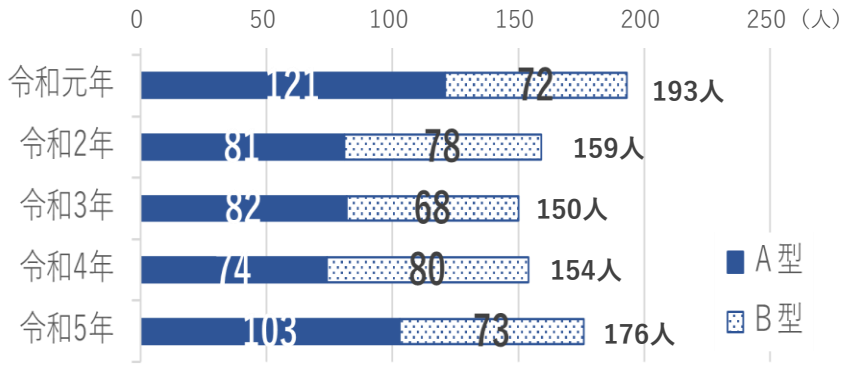
■ 調査結果概要

急性大動脈解離患者数

令和4年
154人

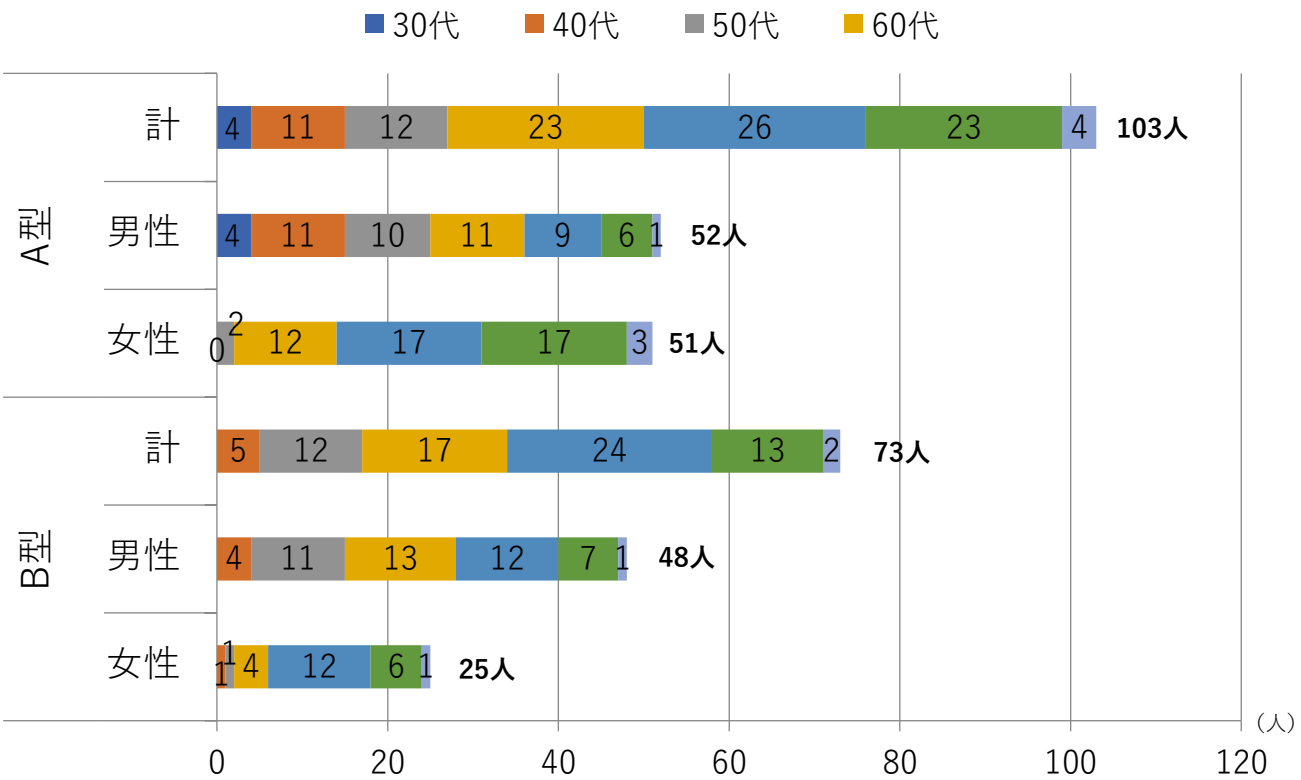
令和5年
176人
22人増

スタンフォードＡ型・Ｂ型の患者数の推移（R1～R5）



・令和5年は令和4年よりも
Ａ型は29人増加、**Ｂ型は7人減少**している。

スタンフォードＡ型・Ｂ型の内訳（年代・性別）（R5）



急性大動脈解離

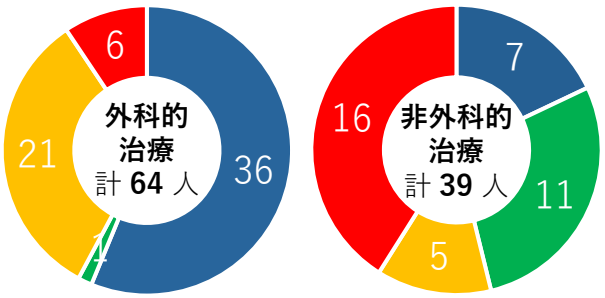
R5年調査

スタンフォードA型

■ A型のうち、外科的、非外科的治療の内訳

外科的治療 ＞ 非外科的治療

■ 転帰の内訳



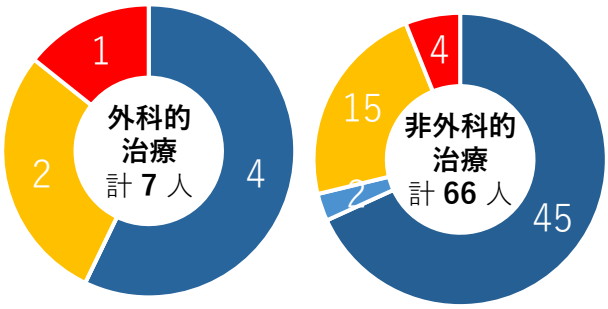
■生存・自宅退院
■循環器専門施設への転院
■その他施設へ転院 ■死亡

スタンフォードB型

■ B型のうち、外科的、非外科的治療の内訳

外科的治療 ＜ 非外科的治療

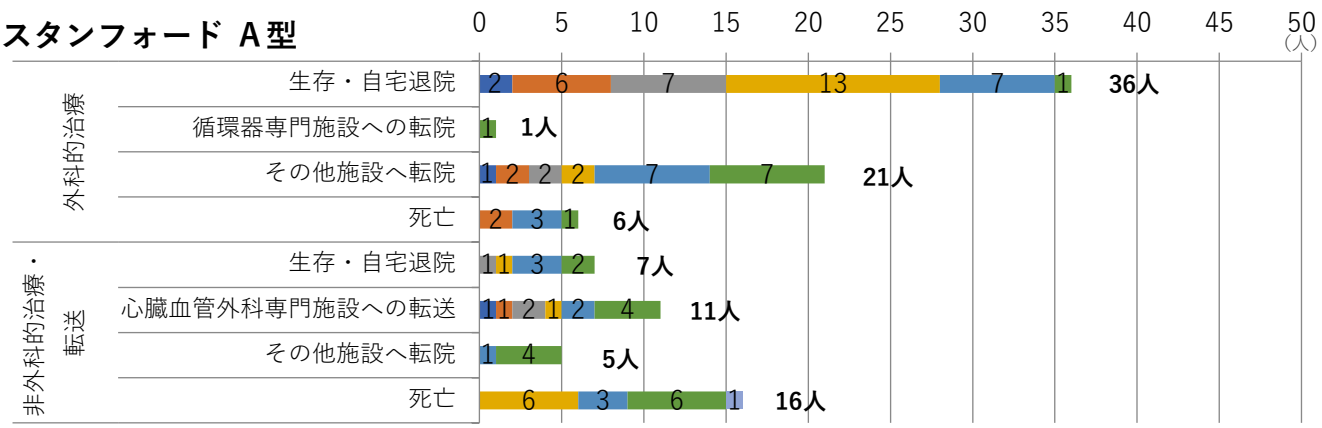
■ 転帰の内訳



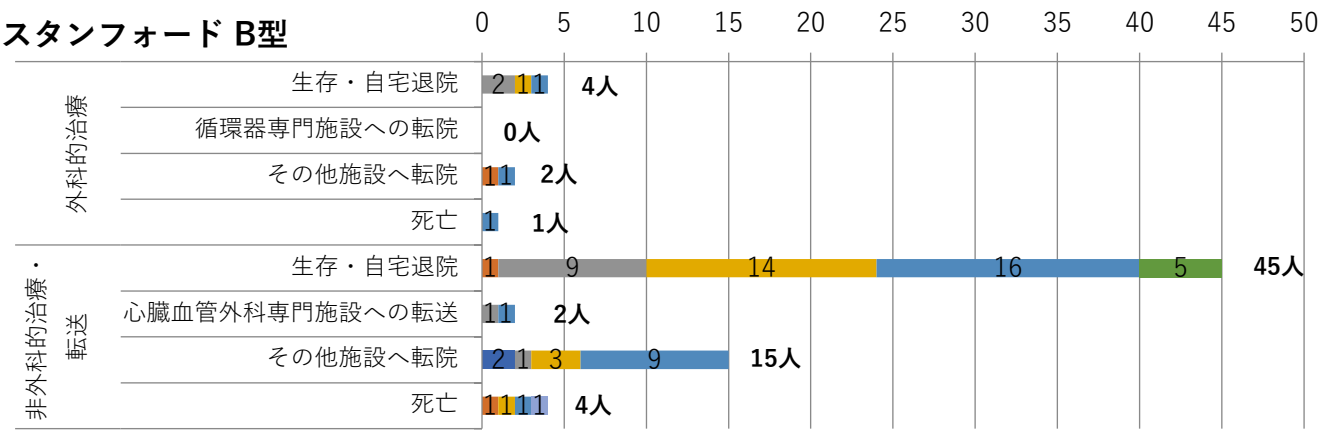
■生存・自宅退院
■循環器専門施設への転院
■その他施設へ転院 ■死亡

■ 転帰の内訳（年代別） ■30代 ■40代 ■50代 ■60代 ■70代 ■80代 ■90代 (n=176人)

スタンフォード A型



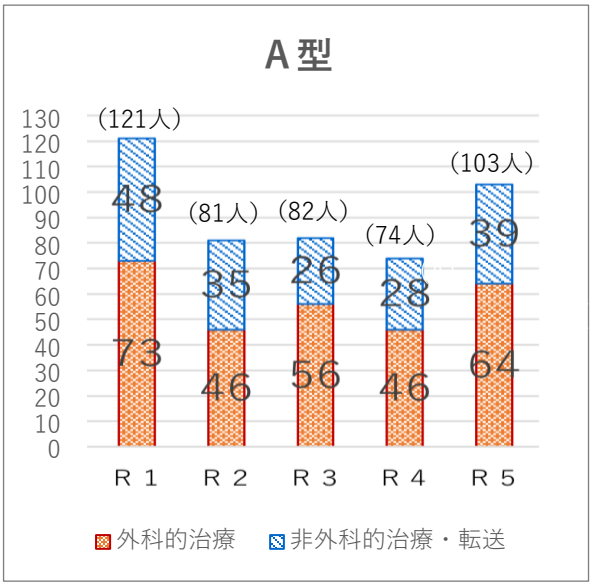
スタンフォード B型

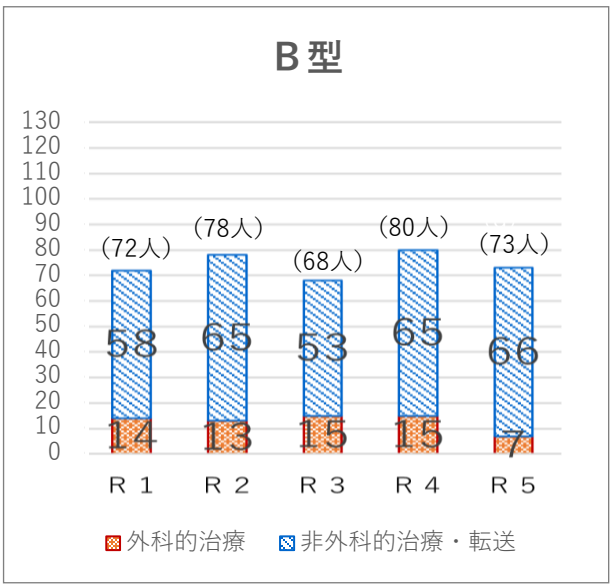


急性大動脈解離

R1～R5年調査

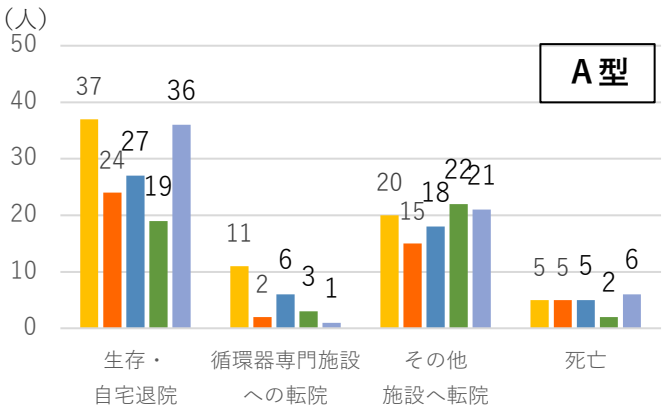
■ 外科的治療及び非外科的治療・転送の患者数の推移

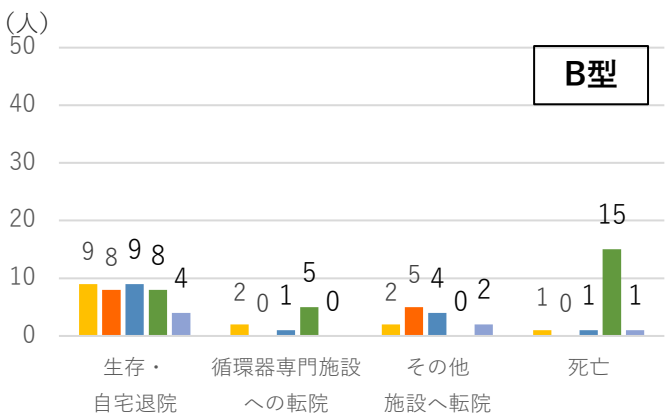




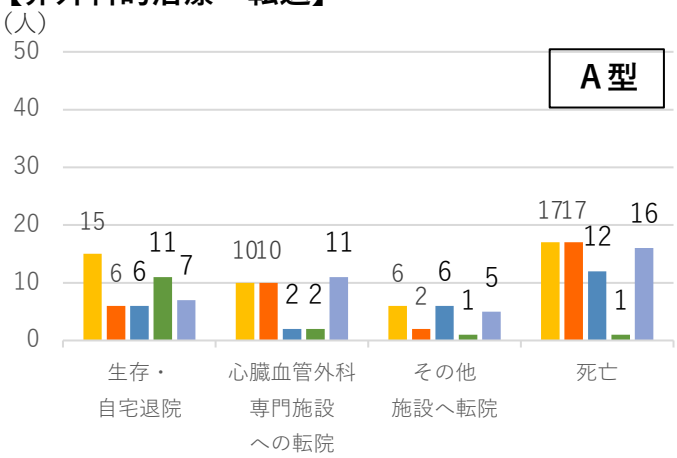
■ 外科的治療及び非外科的治療・転送の患者数の内訳の推移

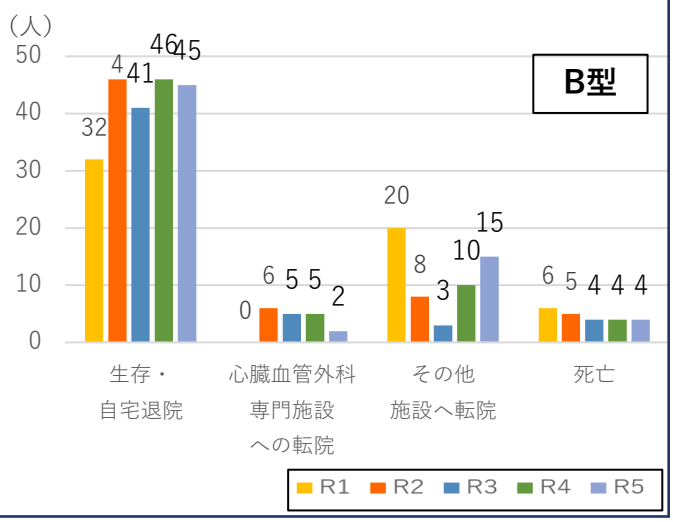
【外科的治療】





【非外科的治療・転送】





心不全

R1～R5年調査

■ 調査項目

問　R5年１月～12月までの心不全による入院患者数

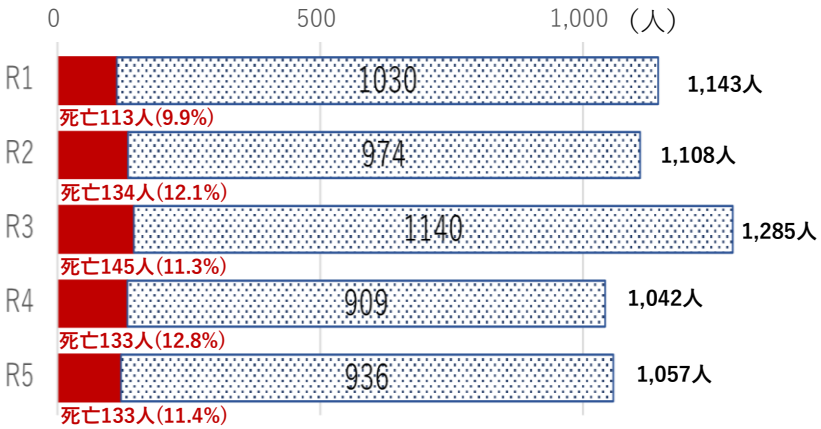
■ 調査結果概要

心不全による入院患者数

令和４年
1,042人

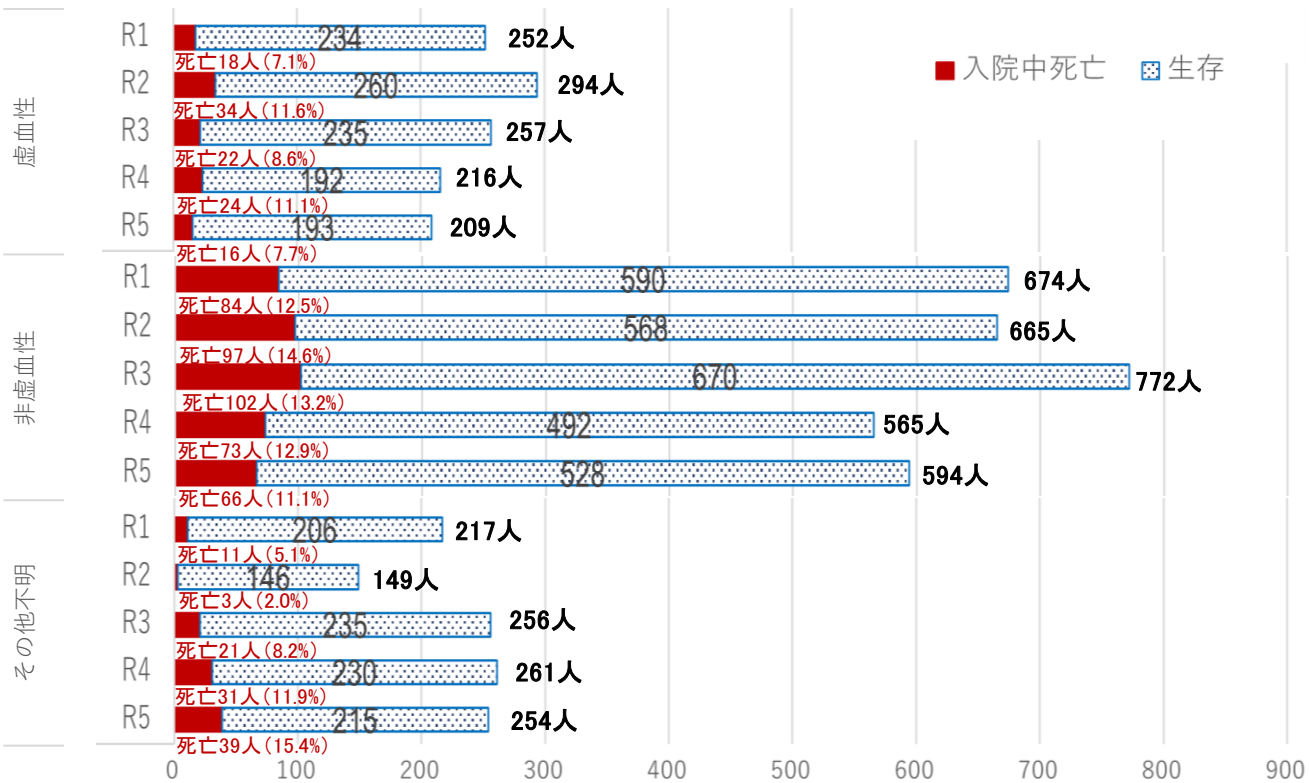
令和５年
1,057人
15人増

入院患者数と入院中死亡者数の推移



・心不全による入院患者数は令和４年と比べて**増加**
・入院中死亡率は令和4年12.8%、令和5年11.4%と、1.4ポイント**減少**した。

心不全による入院患者数の推移

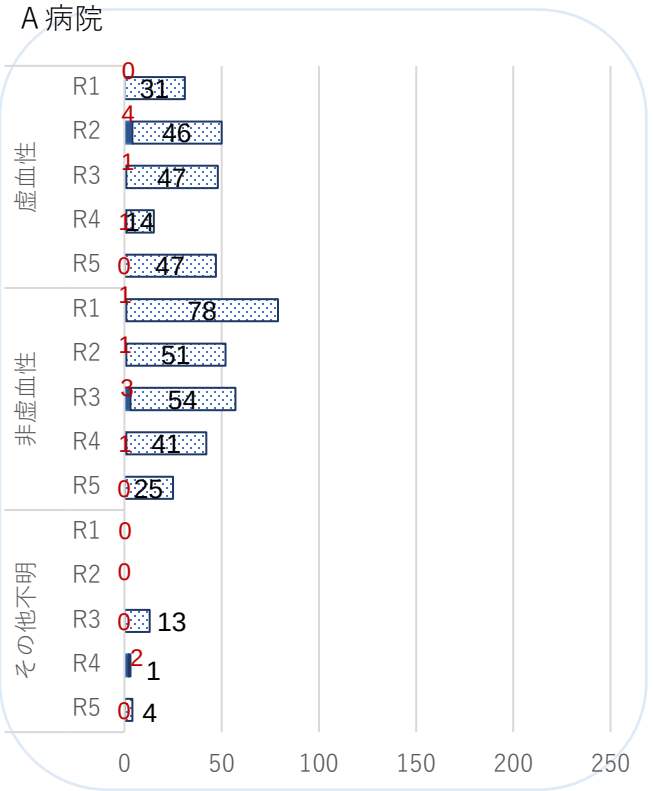


※入院初月のみを計上することとし、複数月継続して入院している患者は計上していない。
なお、同月中に短期間であっても一度退院している場合は、複数回計上している。
（例）１月入院→３月退院：１月に１件のみ計上
１月入院→１月退院→１月再入院：１月に２件計上

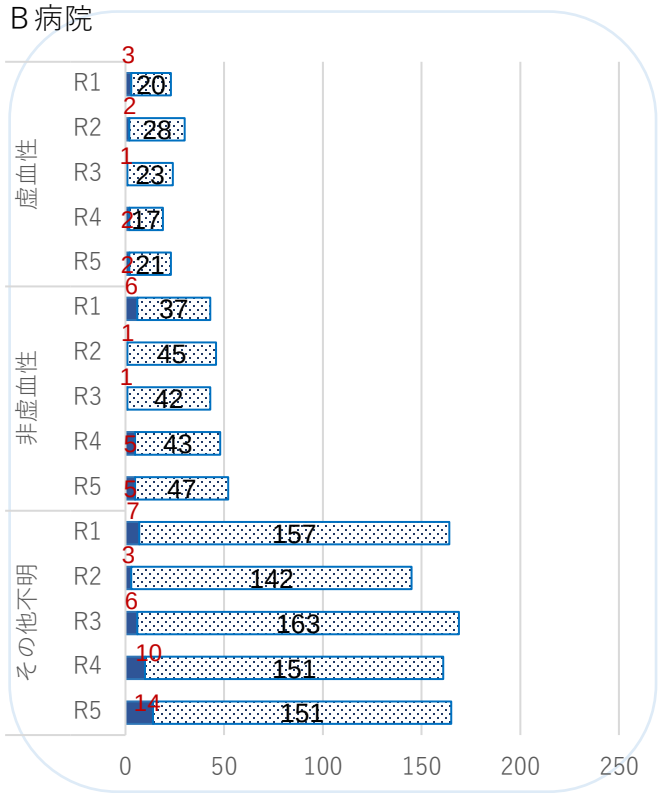
※虚血性、非虚血性、不明の内訳について
(a)虚血性：虚血性心疾患と診断
(b)非虚血性：心不全の原因として非虚血性心疾患（心筋症や弁膜症、先天性心疾患など）が診断されているもの。
(c)不明：(a)(b)以外のもの

心不全　■ 医療機関別患者数内訳　R1～R5年調査

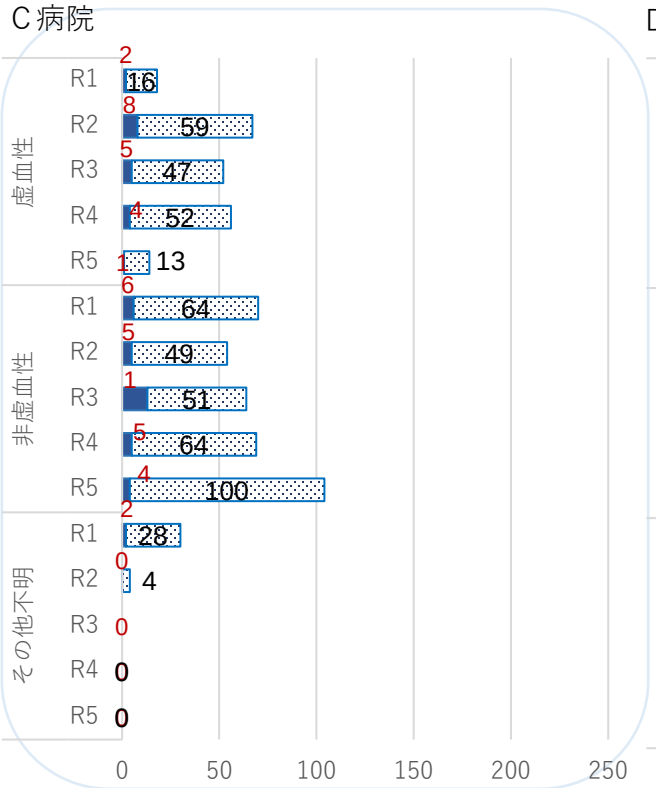
A 病院



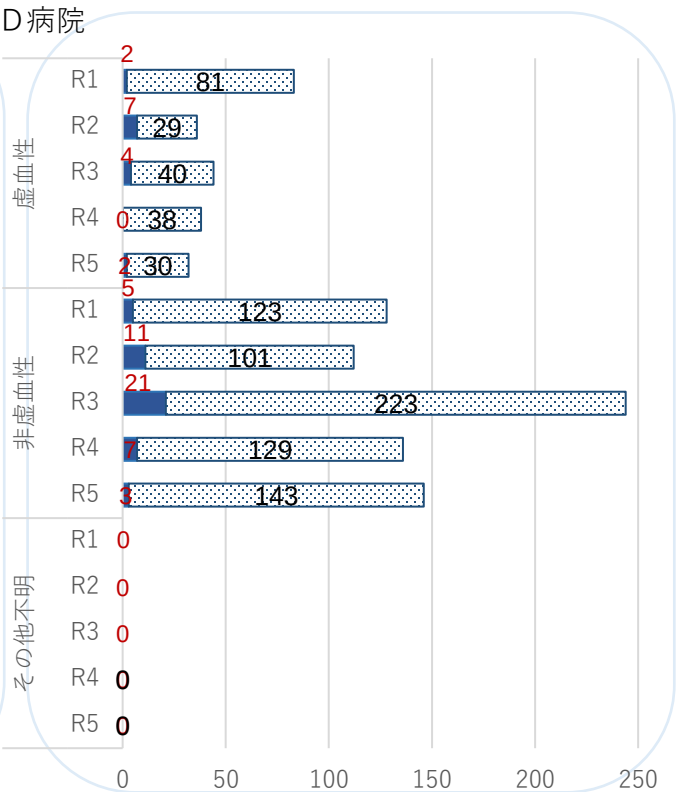
B 病院



C 病院



D 病院

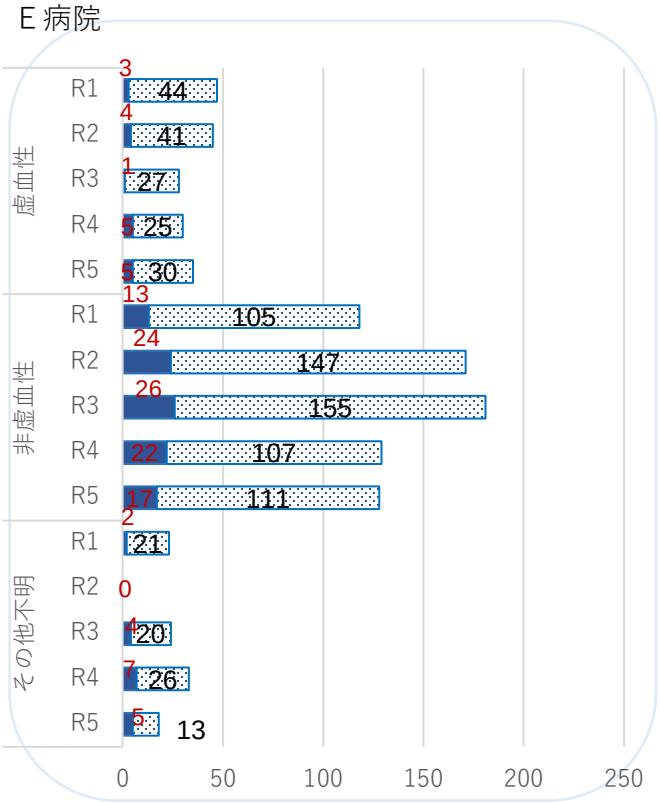


※虚血性、非虚血性、不明の内訳について
(a)虚血性：虚血性心疾患と診断
(b)非虚血性：心不全の原因として非虚血性心疾患（心筋症や弁膜症、先天性心疾患など）が診断されているもの。
(c)不明：(a)(b)以外のもの

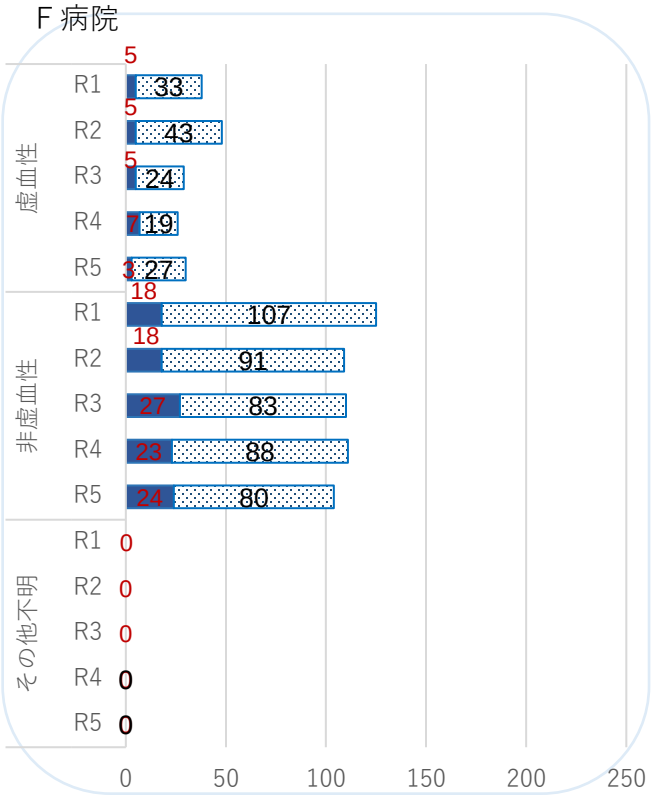
■ 入院中死亡
▨ 生存

心不全　■ 医療機関別患者数内訳　R1～R5年調査

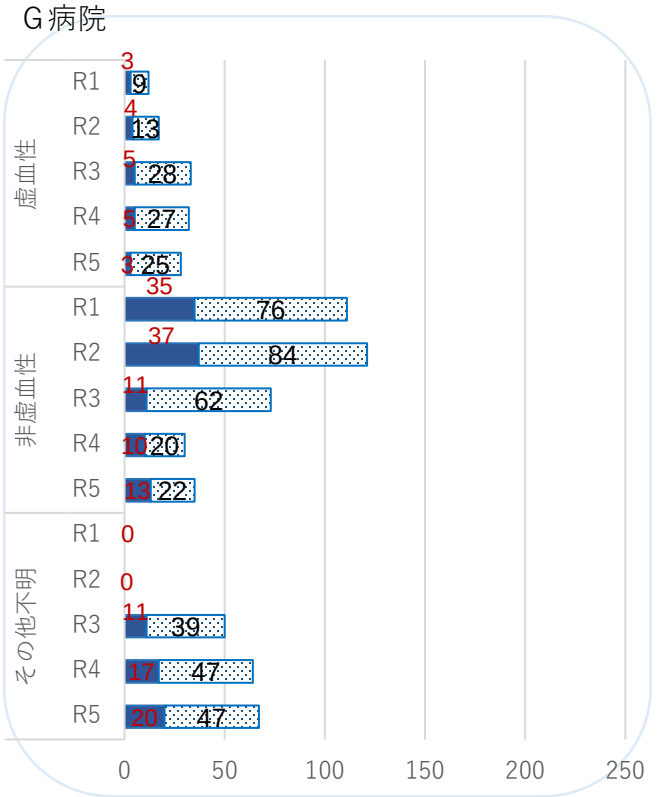
E 病院



F 病院



G 病院



※虚血性、非虚血性、不明の内訳について
(a)虚血性：虚血性心疾患と診断
(b)非虚血性：心不全の原因として非虚血性心疾患（心筋症や弁膜症、先天性心疾患など）が診断されているもの。
(c)不明：(a)(b)以外のもの

■ 入院中死亡
▨ 生存

STOPMI
STOP Myocardial Infarction
心筋梗塞